坂と自転車と兄ちゃん

いちは

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

坂と自転車と兄ちゃん

【Nコード】

N8579I

【作者名】

いちは

【あらすじ】

自転車で坂を上る少年の話。

「この坂、一回も足つかんで上りきったら、兄ちゃんがおる」

少年はそう信じて自転車をこぐ。
立ちこぎ。

右足に全体重を乗せペダルを押し切った後、次は左足。
左足はきき足ではないから辛い。

しかし、こらえて、右足へつなぐ。

なんか、単パンがきつい気がする。

パンツがしりの間に食い込んで、めっちゃ気持ち悪い。
ももの前のところが痛うなってきた。

あん時の兄ちゃん、痛かったんやろうか。

気を失つとるって父ちゃんが言うとな。

痛うはないはずじゃって、言うとな。

確かに、ずっと眠つとるような顔しとな。

兄ちゃんはいつも、この坂を一息で上りよった。

オイは途中から自転車おりて押さんと上りきれん。

先に上りきった兄ちゃんは、坂の途中からじゃオイには見えん。

坂のてっぺんで地面に座つとるから。

兄ちゃんは座って、ニヤニヤして空を見る。

そん顔が少しムカつく。

風が少年の肌をなで、かすかに汗がひいていく。

そして、すぐにまた汗が出る。

いつも、ここが踏ん張りどころやった。
今日はいつもより足が動く。
もうちよつとで上れるぞ。

兄ちゃんは何にぶつかったとや。
トラックか。

葬式で母ちゃんはひどう泣きよった。
父ちゃんは夜中に車の中で泣きよった。
でもオイは泣かんかった。

兄ちゃん死んだつて、分かるようで分からん。
もう会えん、もう会えんて、父ちゃんも母ちゃんも、じいちゃんも、
みんなして言うけん、なんかそげん気もするけど、本当はよう分か
らん。

よう分かつたらん。
だけん、泣く気のせん。
オイもしばらくはブーツととったけど、この坂を思い出した。
兄ちゃんが死んでから初めて、来た。

少年の自転車のハンドルが揺れた。
なんとかバランスは保ったが、スピードは遅く、今にも倒れそうだ。
両手に力を込めて、ハンドルを引き上げる。

危なかつたぞ。
今んとは危なかつたぞ。
せつかくここまで来た。

記録は伸ばしたけど、今日は一気に成功させる。
いつもあきらめとった場所はこえた。
今日をあきらめん。
上りきる。

兄ちゃんが、おる。

こつからじゃ見えん。

座つとるから。

空を見とる。

ニヤニヤして空を見とる。

ム力つくんじや。

あと少し。

あと五こぎで行ける。

四。

三。

二。

一。

てっぺん。

初めて上りきつたぞ。

オイにもできるぞ、兄ちゃん。

兄ちゃん。

兄ちゃん。

おらん。

何でや。

座つとらん。

周りにも、おらん。

おらん。

何でや。

なんでおらん。

兄ちゃん。

なんでおらん、兄ちゃん。

少年は座つた。

兄のまねをして、空を見た。

ニヤニヤしてみたが、うまくできなかつた。

口が、への字に歪んだ。

少年の汗と涙は風に吹かれ、蒸発し、汗だけが乾ききつた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8579i/>

坂と自転車と兄ちゃん

2011年1月19日23時39分発行